

は、生の問題、死んでゆくという問題は超えられない。念仏はあちやんになりなさい」というのは「念仏者」になる「ただ念仏」になりなさいということ。「活」はあれもこれも必要。でも「生」は、あれもこれもではない、ただ念仏。

問題は私自身だった

和^{わだ}田^{だし}稠^{ぢう}先生の話では、北陸の方では昔は「夜が明けましたか」と挨拶したそうです。「生の問題に解決がついたか」と言う意味。これが一番大切。私もそのことを自分の「生涯を通して」この身を通して証していきたいと思っています。たえさんは、これだけ色々な事を経験されて、もうあれもこれも必要ない、いるだけでいい。そして自分の領解したことを話すだけで多くの人の救いになる。あれもこれも必要ない。それを自覚して念仏ひとりで立ちついでほしい。

(佐田尾) 沖縄は祖霊信仰の強いところと聞きますが、(志慶眞) 私は、小学校から大学まで、十代は死ぬ虚しさを感じた。居^{こた}多^たヶ^が浜^{はま}で、(親鸞^{しんらん}さま)ご流罪^{りゆうざい}の地を訪ねたりもした。五年ぐらい落ち込んでいました。沖繩に帰る時に先輩に言われた「沖繩の厳しい現実の中で、分かるまで聞き抜いてくれ」という言葉がよみがえってきた。五年して病院を改築するときに階に間法道場をつくった。広めるためではなく、自分が聞くため。それでだめだったら浄土真宗をよめていたであろうなというきりぎりすのよみかた



佐田尾信作さん(写真右)と釋水鷗さん(写真左)。

なくて、何かあるように伝わってきた。これが普通だと思つた時に新しい視野が開かれて力が湧いてきた。最初は誰も来ないこともあったが今は毎月四五千名、多いときは百名近く。沖縄でも同様に生死の問題は共通の課題なのです。(質問) 私には出口の見えない洞穴の中で生きている家族がいて、私に何が出来るかも分からなくなっています。(志慶眞) 『観無量寿経』では、阿闍世^{あじやせ}が父を殺し母章提希^{ちだいけ}も幽閉^{ゆうへい}する。一般社会では息子をいかに改心させるかを問題にするが、『観無量寿経』はそうではない。その中で悩み苦しんでいる章提希あなたが問題なんですよと章提希の解決をする。阿闍世は阿闍世で『涅槃経』で解決をする。人それぞれ、自分の

沖繩に帰ると、沖繩は先祖崇拜のしきたりの強いところで、すぐメツキがはげおちた。自分が問題だということでは分かっていても、どうしたらいいか分かりませんでした。居^{こた}多^たヶ^が浜^{はま}(親鸞^{しんらん}さま)ご流罪^{りゆうざい}の地を訪ねたりもした。五年ぐらい落ち込んでいました。沖繩に帰る時に先輩に言われた「沖繩の厳

た。二年ぐらいいして、細川先生と関^{せき}先生の往復書簡^{わうふくしょかん}を読んで目が覚めた。その時初めて教えを間違つて受け取つていたことに目が覚めた。

のいふをきいておいて相手のことをやろうとするのではなくて、私が何を抱えているかという問題の解決がとても大切です。 仏法を聞いたら世の中の全てが解決するということはない。起^{おこ}るべき事は何でもおこる。仏法を聞くとほわれわれが起^{おこ}るべきことについて向き合つて生きていくかというその視点が恵まれるということ。問題がなくなるといふことではない。世間は仏道の場合というのが、私は、わが身自身が仏道の場合と思つ。私も息子の問題で行きつまつた時、息子も私も限られたいのちを生きている、その尊さを思つた時、向き合うスタンスが変わつてきた。そういうことを通して逆に仏道をいた

だくことが、自分の中から見えてきたという思いがある。

積尊はバラモン教、ヒンズー教、中国は儒教とか道教、日本は神道。仏教は何もないところ伝わつたのでは

その後広島で六年学び、分かつた気になっていました。